

歴史をふりかえり、

姫路市平和資料館は戦争がもたらした悲劇と惨禍を後世に継承し、かけがえのない平和の尊さを学ぶ施設です。

美しい城下町・姫路



明治維新から満州事変以前、姫路は近代都市への第一歩を踏み出しました。御幸通りの完成や鉄道の開通など、文明開化から近代へ躍進する姫路、その当時の活気に満ちた市民生活や街の様子を写真パネルで紹介します。

しかし、昭和初期には戦争の暗い影が忍び寄り、激動の時代を予感させる出来事が起こり始めます。

覆われた姫路城



日本全体が戦時体制に入り、空襲の標的を防ぐため姫路城に黒い網をかけるなど、姫路の街に戦争の影響が見られるようになりました。

その当時の街の様子や市民生活を立体模型のジオラマやパネルで再現します。



- もんぺ、国民服、鉄兜といった日常品をはじめ、血液証明書や米穀購入通帳、配給物資内訳簿など戦争中配布された書類などを展示し、窮乏を強いられた市民生活の様子が伺えます。
- 触れて体験できる展示コーナーでは、防空頭巾を実際に着用することもできます。
- 戦時下の学校教育を表す写真パネルには、軍事訓練、救護活動をする学生の姿や、太平洋戦争当時の戦況を地図や年表で紹介します。

よみがえる姫路城

昭和20年の姫路大空襲で焦土と化した廃墟の街、姫路城だけは被害を免れ、その美しい姿を心の糧に市民は復興へと歩み出しました。

姫路市初の名誉市民となった都築博士は、広島、長崎の原爆投下直後に現地入りし、被爆者の治療、調査を行い、また、国際的な原子放射能症の権威としても活躍されました。その業績を展示しています。

平和を祈って

姫路市に建立された太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔の模型を展示し、平和への祈りを込めます。



さらに姫路の子どもたちが描いた絵画を展示、戦争を知らない世代へ受け継ぐ場として、また、かけがえのない平和の尊さを学ぶ場として活用します。

炎の中の姫路城



姫路は昭和20年6月22日と翌7月3日深夜から4日早朝にかけて二度の空襲に見舞われ、大きな被害を受けます。ここでは民家・防空壕復元のほか、映像、音響、振動、ジオラマで空襲を再現した疑似体験装置で、空襲の恐ろしさを体験できます。

- 当時の実物資料として、焼夷弾や焼けた金庫、焼け焦げた米のかたまりなどを展示、空襲の凄まじさが伝わってきます。
- 戦争中と空襲後の変わり果てた姫路市街の様子を大模型で再現します。しかし、最後まで空襲の被害を受けることがなかった姫路城は市民の心の支えになったのです。



未来を見つめる。

平和都市宣言

(昭和32年7月22日)

姫路市は、日本国憲法を貫く平和精神に基づいて、世界連邦建設の趣旨に賛同し、全世界の人々と相携えて、永久平和確立のために、まい進する平和都市であることを宣言する。

非核平和都市宣言

(昭和60年3月6日)

青い空、清らかな水、豊かな緑を保ち、明るく平和な生活を守ることが、平和を愛する姫路市民の願いである。

しかるに、最近の世界情勢をみると、核軍備拡大競争が依然として続けられ、地球上の生命そのものが深刻な脅威にさらされていることは、世界の人々のひとしく憂えるところである。

姫路市は、平和憲法の精神にのっとり、核兵器をつくらず、持たず、持ち込ませすの「非核三原則」を将来とも遵守し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、もって世界の恒久平和達成を目指し、ここに「非核平和都市」とすることを宣言する。